

公開質問状を提出するクラ
ウンドワーク三島の小松幸
子理事長㊦＝三島市役所で



再開発で地下水影響 三島市に公開質問状

NPO法人

三島市のJR三島駅南口東街区の再開発事業を巡り、工事が地下水に及ぼす影響を懸念しているNPO法人クラウンドワーク三島(同市)は五日、公開質問状を、豊岡武土市長宛てに提出した。二十六日まで、科学的根拠に基づく回答を求めた。

NPOによると、事業計画の公表資料などを、地質学の専門家らと精査。現場や周辺の地下水や湧水などが減少・枯渇する恐れは完全に否定できないと判断したという。九月の市議会で、一部市議がこの問題を質問したが、市は「影響が出ないようにする」との答弁に終始したため、質問状提出に踏み切ったという。

質問状のうち一つは、昨春のボーリング調査時に高

層ビル建設地点に地下水の観測孔を設けなかったことを挙げ、「建設の是非を正確に検討する上で問題ではないか」とただしている。

また地下水保全策を検討し市長に助言、提言をする対策検討委員会の委員に地質や環境の専門家がいないことも指摘。「複雑な地質構造や環境被害の分析が不十分。委員の追加が必要ではないか」としている。

NPOの小松幸子理事長は「一九六四年東京五輪前後の開発で、一時枯渇した池もある。再開発の地下水への影響が分からないままだ。市民の不安を解消してほしい」と話した。

(渡辺陽太郎)